

主日礼拝

2024年03月17日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「わたしは兄弟たちに御名を語り伝え
集会の中であなたを賛美します。
主を畏れる人々よ、主を賛美せよ。
ヤコブの子孫は皆、主に栄光を帰せよ。
イスラエルの子孫は皆、主を恐れよ。
主は貧しい人の苦しみを
決して侮らず、さげすまれません。
御顔を隠すことなく
助けを求める叫びを聞いてくださいます。
それゆえ、わたしは大なる集会で
あなたに賛美をささげ
神を畏れる人々の前で満願の献げ物をささげます。
貧しい人は食べて満ち足り
主を尋ね求める人は主を賛美します。
いつまでも健やかな命が与えられますように。」
(詩編 22:23~27)

頌栄 24 「たたえよ 主の民」

たたえよ主のたみ、みつかいととも
に、
めぐみにあふれるちち・せいれいを。
ア-メン。

受難節のリタニー

《受難節第5主日》

司式者：弟子たちと同じように私たちは、がっかり
することによって、なにもできなくなった
ことがあります。これからは希望を失わな
いで、その希望による勇氣と力で行動でき
るものとしてください。

会衆：主よ、私たちをあわれみ導いてください。

司式者：イエスさまがみずから十字架を背負いゴル
ゴダの丘へと歩まれ、すべての苦しみを引き
受けられて息を引き取ったことをおぼえて、
このろうそくを消します。(消火)

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来させたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 32 「キリエ・エレイソン」

キリエ エレ イソン キリエ エレ イソン
しゅよ あわれ みを しゅよ あわれ みを
キリエ エレ イソン
しゅよ あわれ みを しゅよ あわれ みを しゅよ あわれ みを

キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン
しゅよ、あわれみを しゅよ、あわれみを しゅよ、あわれみを

聖書 ヨハネによる福音書 12: 20~36

新約(新共同訳) P192~P193

20 さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレム
に上って来た人々の中に、何人かのギリシア人が
いた。21 彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフ
ィリポのもとへ来て、「お願いです。イエスにお
目にかかりたいのです」と頼んだ。22 フィリポは
行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行
って、イエスに話した。23 イエスはこうお答えに
なった。「人の子が栄光を受ける時が来た。24 は
っきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死な
なければ、一粒のままである。だが、死ねば、多
くの実を結ぶ。25 自分の命を愛する者は、それを
失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保
って永遠の命に至る。26 わたしに仕えようとす
る者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのい
るところに、わたしに仕える者もいることになる。
わたしに仕える者がいれば、父はその人を大
切にしてくださる。」

27「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、
わたしをこの時から救ってください』と言おう
か。しかし、わたしはまさにこの時のために来た
のだ。28 父よ、御名の栄光を現してください。」
すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄
光を現した。再び栄光を現そう。」29 そばにいた
群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、

ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。30 イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。31 今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。32 わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」33 イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。34 すると、群衆は言葉を返した。「わたしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とはだれのことですか。」35 イエスは言われた。「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からない。36 光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。」

賛美 310 「血しおしたたる」

○ Haupt voll Blut und Wunden
詞：Paul Gerhardt, 1607—1676
HERZLICH TUT MICH VERLANGEN
曲：Hans Leo Hassler, 1564—1612

1 血主のしのおくするたし主のたみはる主のわのがみかめしなら、
2 主のしのおくするたし主のたみはる主のわのがみかめしなら、
3 主のしのおくするたし主のたみはる主のわのがみかめしなら、
4 主のしのおくするたし主のたみはる主のわのがみかめしなら、
5 主のしのおくするたし主のたみはる主のわのがみかめしなら、

とわは十の字架にのりささののさつらあれみれいに主死あたいのすいたかみべのせにかいたこしなすまたら。みえん。

ななまかみよるやみとわのなはがのやなし身めやににをるむやかた主わつわすをがれりねは主しまもなの主しとれたのしめてめ

い主のたのまのしわきいさみしこのまはしにちだい日さすれとぞりべのとなゆてたうつくさめとかべさぞ。し。き。げん。

- 血しおしたたる 主のみかしら、
とげに刺されし 主のみかしら。
悩みと恥に やつれし主の
痛ましきさま だれのためぞ。
- 主の苦しみは わがためなり。
われこそ罪に 死すべきなり。
かかるわが身に 代わりましし
主のあわれみは いとうとし。
- 慕わしき主よ、わが牧者よ、
はかり知られぬ 愛の泉。
迷うこの身を たずねもとも
導きましし 日ぞなつかし。
- なつかしき主よ、はかり知らぬ
十字架の愛に いかに応えん。
苦しみ悩む わが主のため
この身といのち すべて捧げん。
- 主よ、主のもとに 帰る日まで、
十字架のかけに 立たせたまえ。
かくも悩める 主をはなれて
われはいずこに 去り行くべき。
- 死すべき者を あがなう主よ、
十字架の光 見させたまえ。
み傷をおおぎ み手によらば
いまわのときも 安けくあらん。

説教 「イエスさまが心騒ぐとき」

賛美 502 「光のある間に」

Walk in the light so shalt thou know
詞：Bernard Barton, 1784—1849
WARWICK
曲：Samuel Stanley, 1767—1822

1 ひかりのああるにるく
2 ひかりのああるにるく
3 ひかりのああるにるく
4 ひかりのああるにるく

ならばひかりの子たち
ならば死のたにゆく日
ならばいばらのみちさ
ならばい、ひかりのみかみ

はひとつとなる
もおそれはない
ええいこうのみち
がともにいまます

- 光のある間に 歩くならば
光の子たちは ひとつとなる。
- 光のある間に 歩くならば
死の谷ゆく日も 恐れはない。
- 光のある間に 歩くならば
いばらの道さえ 栄光の道。
- 光のある間に 歩きなさい、
光のみ神が 共にいます。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式：岡田 知恵子
説教：向井 希夫牧師
奏楽：高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。